



礎 いしずえ

第49号

2024年(令和6年)

12月

発行／～地域力つなぐ～枚二校区コミュニティ協議会

編集／コミュニティ協議会広報部

今日も行くところがある



人生100年時代。「まあ、年を取ってからも学ぶことはたくさんある」と、老後生活を送る上でのポイントとして「きょういく」「きょうよう」というキーワードを使うことがあります。すなわち「今日行くところ」と「今日の用事」。生涯大事な言葉です。

離れた心呼び戻す

核家族化や世帯規模の縮小が進む現況、日常的なかわり、ふれあいの機会が減少してコミュニケーションを避け、一人二人と、仲間から離れていく様子を見ることがあります。

戻ってきた人で「仲間づくり」

ここはホッと一息つける場所



ボランティアで「居場所づくり」



午後のひととき。

「コーヒーにしますか？ それとも紅茶がいいですか」

定年などの理由で民生委員の務めを終えたあとも、大人の居場所づくりに携わってくれる人たち。

4年前、いったん幕を下ろしたコミュニティ・カフェテリア方式の「枚二みつば」。今年、装いを新たにしました。

3か所あった居場所を「岡集会所」に集約。「お久しぶり」となじみの人らが戻ってくる第2金曜日、飲み物を手に会話の花を咲かせます。

社協や地域包括職員も顔を出し、話しかけたり、課題を探り合ったりします。

「肩車型社会」が来る

超高齢化の問題点は「1人の高齢者を何人の現役世代(生産年齢人口)で支えているか」

▽1975年 7.7人

▽2000年 3.6人

▽2025年 1.9人

現役世代が多かった時代は「胴上げ型」。今は胴上げに回る人口が減り、約2人で支える「騎馬戦型」。将来、1人で担う時代が来ると「肩車型」という社会になります。

(資料Ⅱ人口問題関連)

「私たちにできることは」

長く働き活動し、現役世代の負担を減らさなければなりません。健康寿命を限りなく延ばす意識を持つことが大事です。

この日、友人とカフェに訪れた石橋春子さん(87)は人生について「年齢はあまり気にかけないが、友だちに問われてハツとすることはある」「毎日鏡を見ているが、写真に写る背中では丸くなった」と、新たな気づきと良好な健康状態をアピールしていました。

紙の使用やめて3年。脱炭素に貢献

こうして今年、緑の豊かさを守るために設けられた聞きなれない「森林環境税」を住民が負担します。その税収が国から「森林環境譲与税」として自治体等へ譲与され、森林整備や木材の利用促進に活用し脱炭素につながります。

「森林環境譲与」

こうして今年、緑の豊かさを守るために設けられた聞きなれない「森林環境税」を住民が負担します。その税収が国から「森林環境譲与税」として自治体等へ譲与され、森林整備や木材の利用促進に活用し脱炭素につながります。

iPad導入と「森林環境譲与」

例会議や定時総会で使用する資料はすべて紙様式でした。ホチキス止めも、出席者全員に配布する作業は膨大なものでした。

「iPad導入と「森林環境譲与」



会議などでペーパーレスを推進すると、紙書類の廃棄が減り、自然環境の保全につながります。また、生産原料となる森林の伐採量が抑えられるため、地球上の貴重な資源が守られます。

枚方中学校生が伝授！

ICT活用推進

部活

助け合い実践講座

しかし、iPadの使用には難題があります。「操作方法は簡単ではない」「その他の活用方法は…」といった現役を終えて時間が経つ役員たちのSOSサインです。

こうした声に力を貸してくれるのが、枚方中学校ICT(情報通信技術)委員の部員たちです。

今年も1月と7月に部員たちが会議の場に来てくれ、これまで複数回マンツーマン



▲プレゼンの様子と委員のメンバー(下段写真の左から5人と右から2人目は西村校長(7月))

になりました」

ICT委員長の加藤さんは「タブレットの活用方法をどのように発表し、どう伝えるかを考え実践できるよい機会になりました」

方式などによる「iPad講座」を開きました。委員は1年生と2年生が中心で、経験を積みコミュニケーションを学びます。

そして一歩進んだ7月は、手書きのノートアプリ「グッドノート」と画像デザイン編集アプリ「キャンバ」のiPad活用をプレゼンテーション。生徒、役員全員で実践しました。

「能登」紡ぐプロジェクト

「能登」紡ぐプロジェクト

有志

同中学校では、生徒有志でプロジェクトチームを組んで活動する事例があります。

能登半島地震を受け、学習機会を確保するために親元を離れ、集団避難を選んだ同年代の中学生に心を痛め、「能登支援をしたい」と礎で取材・既報の通り、枚方市駅近くで街頭募金活動を行いました。

その状況と、石川県の現状をスライド作成した「のとプロ」報告会が1学期末の生徒集会でありました(写真)。

西村校長は「募金に協力いただいた方への感謝の気持ちが高く伝わっている」と高く評価。後日、校長と教育関係者らが同県珠洲市を訪問することになり、同市長、同市立緑丘中学校



校長らと会って生徒たちの思いを伝えました。

つながりができ、両校中学生同士交流の一步となりました。

子どもの不登校問題

地域で向き合う



枚二小学校はまであと数分のところの急な登り坂で、地区登校班の列が乱れる。新入生は前方を歩く

小中学校における不登校児童生徒数は34万人。この問題を親身に考えようと枚二では、「地域とともにある学校づくり」の一環として小学校教員の負担軽減を念頭に置き、専門家の手を借りない「学校をより楽しくするプロジェクト」をスタートしました。

取り組みには枚方保育所と枚方幼稚園の所長・園長も参加。子どもは「就学前後が最も大切」として、つまづきや行き渋り、戸惑いをなくすために意見を出し合います。

学校をより楽しくするプロジェクト発足・枚二小

登り坂と段差

【コミュニティ会長】

「『学び舎』としてだけでなく、『遊びや』『楽しみや』などの要素を取り入れ、より楽しい居場所にしていく必要がある」

【幼稚園・園長】

「小学校入学後、地区登校班の歩くスピードについていけない児童がいて児童も保護者も困っている、と聞く」

【保育所・所長】

「就学前施設として小学校への段差をなくすために努力している。小学校の先生にも来所してもらっている」

快適な空間づくり

9月6日(金)は一つの区切りをつけ、プロジェクト委員12名が参加。場所は新型オーディオセット(スピーカー4つ)を揃えた枚二小・学校図書館。「新たな不登校を生まないこと」を目標とし、屋内外の環境形成など快適な空間を創造していきます。



誰もがあくつろげる新設「ほっとルーム」

①「図書館内の充実はかなり厳しい」ので、外装の木目張りなど、ぬくもりを感じさせる「懐古的な」ものを進めたい。

読みたい本がきっと見つかる！



窓以外は全部本棚。学校図書館での意見交換会、会議(9月21日)

■進言

②「教室に居づらい児童が一定数いる」が、空き教室を改良して「ほっとルーム」が新設できた。居場所づくりの先行事例として内外にアピールしていきたい。

9月21日(土)は市長との「意見交換会」の席で本取り組みに言及しました。伏見市長は「地域での対応はありがたい。子どもたちの豊かな心を育んでほしい」と期待感を寄せていました。



「全員集合」地域のチカラと区民体育祭のカタチ 2024.10.27

約2分の動画。こちらも見てください



大縄のアーチ



「おやつ時間」は10時10分



入れ方には「コツ」がある

前日まで「雨」のお天気情報を「晴れ」に見直し！

それでも「どしやぶり」



こぼさないように「水」の大切さを肌で感じる



「Kチーム早い！ みんながんばってください」「Oチーム1着です！」



勝利の旗は右か左か！



見直し元年

枚二小学校が開校されたところに生まれ、これまで大きな変更点などはなかった区民体育祭。今回初めて「参加希望者が少ない」一部種目を外すなどして見直し、「誰もが楽しく参加」できることを重視。人影が伸びる朝、多くの参加者がグラウンドに集まりました(左写真)。

「どしやぶり」は年代別、「〇×クイズ」は年齢に関係なく、ユニークな発想を取り入れた競技です。

各競技とも子どもたちは喜びいっぱい。賞品係にお礼を言っていました。



賞品の中身は学習用品や生活用品です

昼食後は「〇×クイズ」



交通安全から防災、歴史、人口の問題まで全10問正解者は7人(右写真)。そのうち家族4人で参加した川原町の子も(5)は1人勝ち残り、問題は「カンタンやった」と笑顔でした。





枚一 新たな暮らしとまちづくり

江戸の町から未来へつなぐ



新町・江戸の町家住宅前をゆっくり西進

枚方市駅近くは今、市の観光情報発信拠点「Syuku56」とたくさんの店舗が入った高層ビルが建ち、にぎわいのある街と閑静なたたずまいを見せる街の双方を感じることができます

意賀見神社奉納 ふとん太鼓「安全」巡行



旧街道と並行する新しい道。周辺工事が続き、バックは「ステーションヒル枚方」

枚方「まちづくり」の象徴ともいえる意賀見神社の秋祭り、ふとん太鼓巡行が10月13日(日)にあり、4町が東海道56番目の「枚方宿」を練り歩きました。

新町は旧街道の景観を形作る江戸の町家住宅前を通り、市駅前に竣工した29階建て複合施設「ステーションヒル枚方」と古い建物から14階マンションに建て替えられた

「OPH枚方駅前」を背景に巡行。2トンもあるみこしは重い分だけ迫力満点、時代を超えたコラボレーションが未来を創造します。

細い道筋が残る旧街道はゆっくり進んで方向転換。一般車道を通る時は、信号で「止まれ、進め」など警備・誘導も大事な役割です。

今年の当番町で、新町の祭り世話役・南昌克さん(62)は事前の備えと出発前のあいさつから運行まで、300年以上続く伝統行事の安全を図っていました。

編集後記

人口減少が進むなかで「土地利用の変化と課題」があります。旧街道筋は駐車場が増えるが、ある地域は空き家が減り、マンションが建ち進んでいます。人口回復期待に相反して悩み深いのが、地域行事など社会参加の少なさです◆大学生が、区民体育祭で活躍する子どもたちの写真をたくさん撮ってくれました。運動会にはなく、親子で楽しめる競技がある体育祭。子どもは地域社会の中で大人や年齢の違う友人と交流し、体験を積み重ねていくことが大切です◆「小学校を出て年月が浅いのに、こんなことができるのか」と強く印象付けられるのが、地域に学ぶ中学生の貢献活動です。困っている人を支え助けて、自らの成長につなげる。子どもたちを中心とした地域コミュニケーション発展への期待感が高まってきました。